

学園創立 103 周年を祝う



式典後、後藤淳理事長（前列中央）を囲み、記念写真を撮る永年勤続表彰を受けた皆さんと学園関係者



愛知工業大学
愛知工業大学情報電子専門学校
愛知工業大学名電高校
愛知工業大学附属中学校

目次:

物故者法要営む	3
学生に百元朝食	3
新食堂棟を建設	4
ロボカップ協定	5
応用化学 55 周年	6
吉村選手五輪へ	6
新プロジェクト	8
学園の防災訓練	8

発行所

名古屋電気学園

〒470-0392

豊田市八草町八千草 1247

TEL (0565) 48-8177

春日井野球場、初の大改修

学園は春日井総合運動場の内の野球場を整備します。昭和五十三年に完成、高校

野球部が練習場として使用しています。が、隣地を取得できたため、グラウンドを広げる初の大改修となります。Ⅱ4面

学校法人・名古屋電気学園の創立百三周年記念式典

が十一月十日、淳和記念館三階ホールで、後藤淳理事長ら学園関係者、教職員、来賓ら合わせて百六十人が出席して行われました。Ⅱ式辞、謝辞要旨2面



式辞を述べる後藤淳理事長

それぞれの所で力を出していただいて、ご協力をお願いしながら頑張つていきたい」と式辞を述べました。

続いて、教職員の永年勤続表彰があり三十五年、二十五年、十五年の永年勤続者合わせて二十二人を表彰しました。

高校吹奏楽部の伴奏で国歌を斉唱した後、後藤理事長が「設置校の卒業生は今や十万人を超えています。戦時中、戦後の困難な時、大学を作った時、いろいろな時に教職員、学生生徒の諸君が力を合わせて名古屋電気学園の歴史を作り、ここまでやってきました。ものづくり教育で人を育て、世に送っていく姿勢はいつまでも変わりません。百周年から三年たったこれから益々大事な時です。皆さん方一緒になつて、学園の発展に向けて、

記念式典 永年勤続 22 人を表彰

これに対し受賞者を代表して大学基礎教育センターの安藤光史教授が「学校というこの豊かな可能性を秘めた職場に長く勤められたことに感謝しています。次の百年に向けて新たな躍進を始めたい、この大事な時代に学園に勤務できることを喜びとし、少しでも学園の発展に尽くしたい」と謝辞を述べました。

永年勤続表彰を受けた皆さん

【勤続三十五年】六人

- 大学基礎教育センター教授・安藤光史
- 事務局経営統括本部本部長・三輪博美
- 事務局財務部次長・伊藤忍
- 事務局総務部総務課主幹・宮島宝七子
- 大学学務部次長・井澤清人
- 大学国際交流室課長・大元司

【勤続二十五年】八人

- 大学工学部応用化学科教授・小林雄一
- 大学情報科学部情報科学科准教授・水野勝教
- 高校教諭・鈴木英之
- 高校教諭・松本裕一
- 高校教諭・山田健一
- 事務局局次長・後藤尚之
- 事務局総務部人事課課長・林敬二郎
- 大学キャリアセンター課長・後藤幸樹

【勤続十五年】八人

- 大学工学部土木工学科教授・内田臣一
- 大学経営学部経営学科教授・岡崎一浩
- 大学経営学部経営学科教授・後藤時政
- 大学工学部土木工学科准教授・小池則満
- 大学情報科学部情報科学科准教授・菱田隆彰
- 大学教学センター教務課課長補佐・加藤 聡
- 大学教学センター学生課係長・中島智恵子
- 大学学務部経営学部事務室事務主任・村上亜希子

昨夜来の雨も上がって非常にいいお天気になり、創立記念式典への、いい贈り物になりました。

学園は三年前に百周年を迎えました。大正元年にできた名古屋電気学校から百年を数えます。大正、昭和、平成と若い技術者の養成が学校設立時から創立者の目標であります。卒業生も合わせると十万人は超えています。戦時中、戦後の困難な時、大学を作った時、いろいろな時に教職員、学生・生徒の諸君も合わせて、

記念式典 後藤理事長の式辞要旨

わが名古屋電気学園の歴史を作りながら、世に人を送り出し、ここまでやってきました。

「次の百年に向かって」と言っておりますが、少子化、高齢化、地球上は今いろいろな意味で問題を抱えています。国際間、国内の問題、まだまだ出てくるでしょう。大学では十八年問題があります。これらの問題を乗り越えながら、大学、高校、中学、専門学校がいずれも工業を中心に置いて、ものづくり教育で人を

学園の発展に向けて

それぞれが力を発揮を



育て、役立つ人を世に送っていく姿勢はいつまでも変わりません。百周年から三年たったこれから益々大事な時です。皆さん方一緒になって、学園の発展に向け、それぞれの所で力を出していただいて、ご協力をお願いしながら頑張ってくださいと思います。

この後、学園の法要があります、私の知る限り七十年ぐらい続いています。学園にお勤めいただいた方、勉強された方、ご尽力いただいた方、そういう中で、

亡くなられた方々をしのんでご供養し、さらに学園の繁栄もお願い申し上げます。ということですが、そういう方々をこれからも大事にしていきたいと思えます。

永年勤続表彰も長い歴史があります。十五年、二十五年、三十五年のお勤め、永い間ご苦勞様でした。三十五年と言えば百年の三分の一はここで勤め頂いたということですが、

今日は事務職の方が多いように見受けられます。何も学校は先生方だけである訳ではありません。先生が研究、教育、子どもの指導にあたるために必要なものを事務方で用意し、万全の体制を作るということはとても大事な役目です。それがあつてこそ先生方も本人の仕事に打ち込めるということだと思えます。事務の方には、それぞれのところでご勤務していただき、あらゆる分野の仕事を覚えていただきました。

今日は表彰状、記念品を差し上げて、今後とも、いつまでも元気で精進いたたくことを祈念して挨拶いたします。今日はおめでとございます。



謝辞を述べる 安藤光史教授

ただ今は理事長先生から過分なお言葉と記念の品を賜り、無事に一つの節目を迎えられました喜びをかみしめ、次なる目標に向けて身の引き締まる思いです。三十五年という歳月には紆余曲折がありました。心身の浮き沈み、これは誰にもあるものです。そういう一教員を学園は忍耐強く見守つてくださり、理事長先生をはじめとする皆様の懐の深さに救われ、この日があります。まずそのことに

深く感謝いたします。さて情報網の発達した今の時代になぜ学校が必要か、そんなことを時々考えます。学校とは単なる知識を途方もない大きなものに変換する装置だと思えます。だから学校はいつの時代も存続してきました。学校は一定の時間を確保し、人と人の出会いを約束します。そもそも学校、スクールという言葉は古代ギリシャ語に発し、その意味は余暇、学ぶ時間、学ぶ場

謝辞要旨 安藤光史教授 大学基礎教育センター 35年間の学校勤務 幸せだった

所と広がりました。昨今の学校を取り巻く環境は余暇など許さない厳しいものです。しかしそれでも、やはり創意工夫につながる学びの環境には一種の余裕、遊び、プレイの精神が必要ではないかと思えます。

学校はまた出会いの場です。学生と教員、学生と職員、学生同士、一つひとつの出会いが実は未知の世界を覗く窓であり、学びの源泉だと気付いた時、学校は一変して豊穡の場となります。教え、学ぶ関係は決して教員から学生への一方的なものではありません。教員が学生から学び、学生同士が学び合う、こういう学びの関係が大きく広がるのが大切であります。

学校というこの豊かな可能性を秘めた職場に長く勤められたことを私は幸せであつたと感謝しています。学園は次の百年に向けて新たな躍進を始めました。この大事な時代に勤務できることを喜びとし、少しでも学園の発展に尽くしたいと思えます。その思いは、ここにいます皆さんも同じであると信じます。本日はありがとうございました。

物故者遺族招き27年度法要営む



焼香に向かう後藤理事長

せて三百三十人が参列しました。

読経が流れる中、後藤理事長を先頭に焼香の列が続きました。中には遺影を抱いて目頭を押さえる遺族の姿も見られました。

創立記念式典に引き続き、会場を覚王山日泰寺(千種区)に移して学園の二十七年物故者法要がしめやかに営まれました。今年度の新物故者十三人を含む物故者遺族が招かれたほか祭主の後藤淳理事長はじめ学園関係者、設置校教職員、学生・生徒代表ら合わせ

後藤理事長は最後に「年に一度の法要であります。本日はたくさんのご遺族においでいただきお礼を申し上げます。名古屋電気学園も創立百三年を迎え、この間、大勢の方にお世話になって、ここまで頑張ってきました。これから益々難しい時期を迎えますが、こ

れを機にさらに頑張ってください。亡くなった方を偲ぶと同時に、ご遺族の方々も、いつまでもお元気な顔を見せて頂きたいと思えます」とお礼を述べました。



焼香するご遺族の皆さん

大学後援会が支援学生に「百円朝食」

大学の全学生に対する生活支援の一つとして「百円朝食」がこの秋、期間限定で実施されました。愛知工業大学後援会が予算措置を講じて協力、実現しました。



生活支援として実施された百円朝食を食べる学生たち

十月一日から八草キャンパスのセントラル食堂、アメリカカフェ、自由ヶ丘キャンパスの自由ヶ丘食堂で学生のみで数量限定で提供され、平日授業開講日の五十日間、続けられました。初日は八草キャンパスの二店舗は完売。開店前から並ぶほどの盛況ぶりでした。学生にアンケートしたところ「味もよく、量も適当」との声が多く、好評でした。懇談会も開催 大学後援会の懇談会は十月二十四日



大学後援会の懇談会

に八草、同三十一日に自由ヶ丘の両キャンパスで開かれ、保護者ら約八百人が出席しました。後藤泰之学長、深井昇会長の挨拶に続き学生生活や就職状況についての説明がありました。この後、学科・専攻別の懇談会などが開かれました。

後藤すゞ子先生奨学金2件の交付

学園が制定している「後藤すゞ子先生奨学金」の交付が二件ありました。奨学金は元学園長の後藤すゞ子先生の遺志に基づき設けられ、父親の死去、失職など思いがけない理由で学資の負担が難しくなった設置校の学生、生徒が学業を継続できるように支援するものです。



情報科学部学生に対する交付は十一月十七日、八草

キャンパス本部棟で行われ後藤淳理事長が奨学金の趣旨を説明しながら母親に手渡ししました。後藤理事長は学生に「お母さんを大事にして、しっかりと勉強してください」と励ましていました。

専門学校学生に対する交付は十月二十九日、豊田市陣中町の専門学校の校長室で行われ、稲垣慎二校長が後藤理事長に代わり奨学金の趣旨を説明し母親に手渡



専門学校生に対する奨学金の交付

しました。稲垣校長は学生に「資格を取って頑張ってくださいね。しっかりと勉強して家の支えになってください」と励ましていました。

大改修の春日井野球場 中堅まで122メートル

学園は、高校野球部が練習場として使用している春日井総合運動場内の野球場を整備することになり十一月十一日、現地で安全祈願祭を行いました。現在の野球場は昭和五十三年に、当時高校野球愛知大会の決勝戦が行われていた熱田球場と同じ規模で整備されました。

今回、野球場西側で行われていた区画整理の余剰地二二七・一㎡を取得することができたため、グラウンドをライト方向（西側）に約十五度回転させる形で拡幅、本塁から両翼へは百メートル、中堅へは百二十二メートルの距離



▲安全祈願祭で玉串を奉奠する後藤淳理事長
▼野球場の中央で行われた祈願祭の会場



となり、阪神甲子園球場並みの広さといえます。ファウルエリアも幅十五・五メートルの広さになるほか、本部長、ダッグアウト、ピッチング練習場、スコアボードの各施設も移転新築され、三十七年ぶりの大改修となります。

祈願祭には後藤淳理事長ら学園関係者、久保芳孝校長ら中学・高校関係者ら二十人が出席、神事の中で玉串を奉奠しました。

後藤理事長は「野球部の選手たちはここで練習して何度も甲子園に出場しました。選抜では一度優勝もしました。野球が変わってき

ており、少し手狭になっていたのですが、今回、敷地を広げることができたのであらためて整備することに

しました。来年の夏はぜひ頑張つてほしい」と述べました。

来春完成の予定です。

八草キャンパス 新食堂棟を建設

学園は八草キャンパスでの新二号館建設に伴って、解体した旧五号館跡地に新食堂棟を建設します。十一月六日に後藤淳理事長ら学園、大学関係者が出席して安全祈願祭が行われました。

在旧本部棟で営業しているマイティハウスが入り、座席は一階が三百五十七席、二階が百七十六席となります。来年五月末に完成し、六月から営業の予定です。

安全祈願祭で後藤理事長は「新食堂棟はこの地区の中心に当たります。憩いの広場とともに利用、集つていただき、キャンパスを賑やかにして大学の発展につ



新食堂棟の完成予想図



新食堂棟の安全祈願祭で挨拶する後藤理事長

なげてほしい」と挨拶しました。

元管理部長松原さん 愛知県知事から表彰

元学園管理部長で愛知県卓球協会理事長の松原曉美さんが本年度の県教育文化功労者に選ばれ、県知事表彰を受けました。

県知事表彰は地方自治、産業等の各分野で功績のあった個人や団体に毎年贈



知事表彰を受けた松原曉美さん

られ、今回で六十七回目を数え、受賞者は松原さんら四十九人。松原さんは、愛知県卓球協会をはじめ日本卓球協会等の各役員を長年務め、組織の強化育成とともに卓球競技の普及と指導に尽力し体育の振興に貢献したとして県知事表彰を受けました。

表彰式は十一月十三日、県庁内の講堂で行なわれ、大村秀章知事から松原さんに賞状と記念品が贈られました。

ロボカップ 共同開催で協定書

来春、本学八草キャンパスで開かれる「ロボカップ ジャパンオープン 2016愛知」について、本学など三団体は十月二十一日、本学において共同開催の協定書を取り交わしました。



それぞれ署名、押印しました。

協定を結んだのは本学と特定非営利活動法人ロボカップ日本委員会、一般社団法人ロボカップジュニア・ジャパンで、本学の後藤泰之学長、日本委員会の大橋健会長、ジュニア・ジャパンの高橋友一代表理事が



協定書を取り交わし握手する本学の後藤泰之学長（中央）、日本委員会の大橋健会長（左）、ジュニア・ジャパンの高橋友一代表理事の皆さん

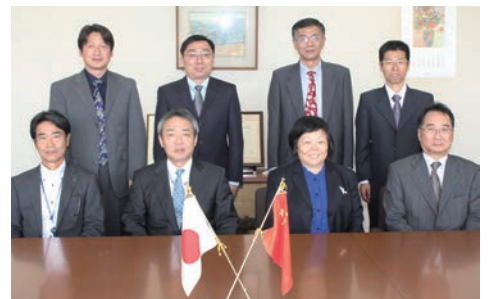
協定に基づき開催委員会、実行委員会がそれぞれ設立され、取り交わしに引き続き開かれた開催委員会では組織や規約、開催概要などが承認されました。組織では名誉会長に後藤学長、大会会長に大橋会長、大会副会長に山田英介本学副学長と高橋代表理事が就任しました。

一方、PR用のポスターⅡ写真Ⅱも作成、学内外での広報活動も始まっています。

ロボカップジャパンは来年三月二十五日～二十七日、八草キャンパスで開催、来場者は海外も含めシニア、ジュニアの競技出場者、見学者合わせ1万人規模とも言われています。

東南大から訪問団 交流促進へ新提案

中国・南京市の姉妹提携校、東南大学の代表団がこの秋、相次いで本学を訪れ、友好を深めました。



記念撮影する郭団長（前列右から2人目）や後藤泰之学長（その左）

十月二十七日には郭廣銀・校務委员会主任（党委書記）を団長に教員ら計六人が訪れました。八草キャンパス本部棟で教職員から拍手の迎えを受け、後藤泰之学長ら本学側と懇談しました。この中で後藤学長は「両校の友好が三十五年続いており先輩たちに感謝したい」と歓迎の言葉を述べました。これに対し郭主任は「東南大学は改革五カ年計画を考えています。もちろん国際交流という項目には愛工大も入っています。



記念撮影する浦副学長（前列左から2人目）や後藤泰之学長（その右）

公立高校の教員に 大学から3人合格

大学教職課程の四年生三人が今年度の公立高校教員採用試験に合格しました。工学部の竹田雄祐君は愛知県、足立吉徳君は岐阜県、浅岡大士郎君は静岡県試験にそれぞれ合格しました。

三人は「生徒の人気を取るのではなく、将来を考えてしっかりと『生徒を構い』注意できる教師になりたい」、「生徒と教員が共に学び続ける姿勢を持ち続けたい」などと目指す教師像を話しています。

たいとの提案がありました。また、第八中学校の日本語クラスの生徒が卒業後ほとんど東京へ留学しますが、東京ばかりでなく名古屋へも留学させたいという希望も出ました。今後、双方の担当者が相互訪問して前向きに検討していくことになりました。

総勢十二人の学生の代表団も十月十日に訪れ、開催中の愛工大祭も見学、ロボットのダンス実演などを楽しんでいました。

応用化学科の開設55周年を祝う

応用化学科の開設五十五年記念式典が十月三日、八草キャンパス1号館で開催され、後藤泰之学長ら来賓、現・旧教職員、卒業生ら合わせて約百三十人が出席して同学科の半世紀余の発展を祝いました。

応用化学科は大学が開学した翌年の一九六〇年に開設され、今年四月までに合わせて六一七〇人の学生が卒業、各界で活躍していま



す。大学の学科再編に伴い二〇〇四年には応用化学専攻が、二〇〇九年にはバイオ環境化学専攻が誕生しました。

記念式典では実行委員長を務めた学科長の釘宮慎一教授が「応用化学科の今後の方向性について卒業生の皆さんの意見を聞く機会にしたい」と開会の挨拶。

続いて副学長の山田英介教授が「応用化学科の歩み」と題して特別講演しました。山田副学長は各研究室に在籍した五十人の全教員について紹介したほか、写真を使って大学の歴史や学科施設の新旧の比較をしながら「大学は常に変遷しているのだから、時々遊びに来てください」と卒業生に呼びかけました。

この後、同窓会を兼ねた祝賀会も開かれ、同窓生や恩師の先生方が思い出話に花を咲かせ、学科の将来についても語り合いました。半年後には記念誌の発行も計画しています。

▲記念撮影する応用化学科の現・旧教職員や卒業生の皆さん

大学男子卓球部の吉村真晴選手（経営学科四年）は来年八月にブラジルで開かれるリオデジャネイロ五輪の男子団体のメンバーに選出されました。吉村選手の世界ランキングは現在十八位、日本人男子としては三位です。本学卓球部出身者では二〇〇四年のアテネ五輪に出場した鬼頭明・本学男子卓球部監督以来二人

大学卓球部 吉村真晴選手

リオ五輪のメンバーに

目。吉村選手は「日本男子初となるメダル獲得に貢献したい」と意欲を見せ、鬼頭監督も「リオオリンピックでは良い準備をして大いに暴れてほしいですね」とエールを送っています。



喜びと決意を語る吉村真晴選手（ニッタクニュース提供）

吉村選手は野田学園高校（山口県）三年時に全日本選手権で優勝、二〇一二年に本学へ入学しました。今年5月に中国・蘇州で開かれた世界卓球選手権では石川佳純選手（全農）とペアを組み混合ダブルスで銀メダルを獲得しました。その後、世界各地の大会を転戦し、スペインオープン優勝など好成績を残し、急速に

ランキングを上げていきました。

吉村選手は「オリンピックの代表になることができ非常に嬉しい。選手としての強さはもちろん、この学園で培った人間力を活かしていきたい」と思っています。これからも期待していただき。ダブルスの起用があると思うので、意識の高い練習をして準備したい。団体戦でメダルを獲ることが目標で、緊張すると思いますが、初めてのチャンスを活かしたい」とも語りました。



開講式で記念撮影する地域防災の専門家を目指す受講者と講座スタッフ

社会人防災マイスター

八回目の養成講座

本学地域防災研究センターが毎年開講している社会人防災マイスター養成講座の平成二十七年年度の開講式が十月六日、自由ヶ丘キャンパスで開かれました。

第八回を迎える今回の講座は、教職や建設関係の五十〜六十歳代の男性七人が受講、地域や職場での災害対策、被災者支援など防災リーダーとしての専門家を目指して、来年七月まで勉強していきます。

センター長の正木和明教授が講座の制度や歴史を説明した後、受講者一人ひとりが志望動機など自己紹介していました。

サイエンス大賞 高校生の研究を顕彰

名電高校Aチームも優秀賞



社会科学・地域づくり部門で優秀賞に選ばれた名電高校Aチーム

大学が制定し、高校生の自然科学などの研究活動を顕彰するA I Tサイエンス大賞の発表・審査が十一月七日、八草キャンパスで開かれました。科学技術立国を支える人材育成を目的に始まり、今年で十四回目。自然科学部門、ものづくり部門に加え、今回から社会科学・地域づくり部門が新

設され、愛知、岐阜、三重、静岡四県の二十九校から四十八チームが参加しました。高校生は日頃の研究成果を五分間ずつステージで発表したほかパネル展示もあり、高校生同士が意見交換や質問など活発に交流する光景も見られました。

そのほかの優秀賞は次の高校です。【自然科学部門】岐阜県立大垣養老高等学校、愛知県立一宮高等学校、愛知県立刈谷高等学校 【ものづくり部門】愛知県立安城農林高等学校、愛知県立一宮高等学校 (B)、愛知県立豊田工業高等学校 【社会科学・地域づくり部門】愛知県立一宮高等学校 (B)、名古屋市立名古屋商業高等学校

「ンパス」をテーマにA4判の作品計六十一点が寄せられました。後藤泰之学長らが審査した結果、最優秀賞に林功さん(名古屋市)の「輝く明日へ」、優秀賞に福島佑規さん(名古屋市)の「仲良し三人組」、学長賞に羽田雅男さん(瀬戸市)の「朝日に映える紅葉」が選ばれました。優秀作品は本学八草キャンパス1号館1階と本山キャンパスで順次展示されます。

修学旅行先の洞爺湖

地元高校生のガイド

中高一貫5年生感激

もう一班は台湾へ

名電高校中高一貫コースの五年生五十七人は十月に修学旅行で訪れた北海道・洞爺湖で地元高校生による遊覧船ガイドの案内を受けました。思いもよらない歓迎に本校生は驚きながらも「親近感が湧いた。楽しかった」と感激、北海道運輸局室蘭支局長からは久保芳孝校長に「このご縁をきっかけに引き続き交流を図って頂ければ」との手紙も届きました。



洞爺湖遊覧船で案内を受ける本校生徒



台湾でお茶を楽しむ本校生徒

有珠山の噴火以来減少が続く修学旅行生を呼び戻したいと道の提案で、地元の虻田高校三年生が全国で初めて授業としてガイド研修を受け、この日が初舞台でした。約五十分の乗船中、虻田

高生の方言クイズなどユーモアあふれるガイドに本校生もすっかり打ち解け、その様子は地元の新聞にも大きく掲載されました。中高一貫コースの修学旅行は二班に分かれ、もう一班は台湾を訪れました。

秋の八草キャンパスフォトコンテスト

最優秀に林さん

紅葉が美しい秋の八草キャンパスを写す恒例のフォトコンテストが今年も十月三十一日開催されました。近隣の住民や写真愛好家ら大勢の人が参加、「愛知工業大学秋の八草キャンパス」



最優秀賞に選ばれた林功さんの「輝く明日へ」



学長賞に選ばれた羽田雅男さんの「朝日に映える紅葉」



優秀賞に選ばれた福島佑規さんの「仲良し三人組」

「新エネルギー技術開拓拠点」始動



教職員や学生ら約250人が出席して開かれたキックオフシンポジウム

大学の「グリーンエネルギー」のための複合電力技術開拓（新エネルギー技術開拓拠点）のキックオフシンポジウムが十一月二十日、八草キャンパスで開かれ、教職員や学生ら約二百五十人が出席しました。本学では自然エネルギーを活用する電力技術開発研究が従来から進められ、平成二十二年度から二十六年にかけては文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「ナノ材料制御技術による新規太陽光エネルギー利用統合技術の創出（グリーンエネルギー研究拠点）」を四つのテーマで推進、数々の成果

を創出してきました。

新しい技術開拓拠点は成果を踏まえ、さらにステップアップを目指すもので、エネルギーの有効活用「Comfort and Community Green Grid System、C.C.G.G. システム」の開発とそれを支えるエネルギーデバイス・材料開発を二チームに分かれ進めます。

シンポジウムは、五年間の研究成果を総括し、今後の進むべき道を明らかにする目的で、後藤泰之学長が「科学技術の発展は人類に豊かさを与えた一方で地球環境の保全といった新しい課題も生まれました。本プロジェクトが低炭素社会の実現に大きな貢献を果たしてくれるものと期待しています」と挨拶しました。

第一部では前プロジェクトの研究代表者を務めた澤木宣彦電気学科教授が「グリーンエネプロジェクト成果の概要」を説明、続いて個別の研究成果が報告されました。

第二部では新プロジェクト

「有効活用システム」開発目指す

新プロジェクトのメンバーは次の通りです。

【C.C.G.G. システムの開発】雪田和人電気学科教授、北川一敬機械学科教授、水野勝教情報科学科准教授、鳥井昭宏電気学科教授、大澤善美応用化学科教授、糸井弘行応用化学科准教授

【エネルギーデバイス・材料開発】森竜雄電気学科教授、五島敬史郎電気学科准教授、徳田豊電気学科教授、岩田博之電気学科准教授、津田紀生電気学科教授、森田靖応用化学科教授、澤木宣彦電気学科教授

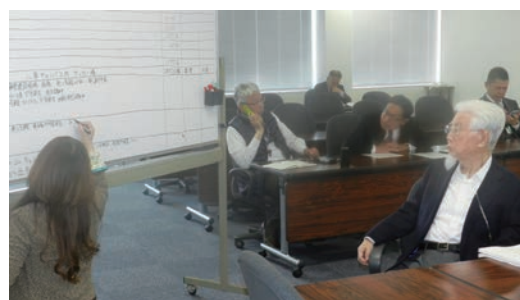
トリイダーの雪田和人電気学科教授が新プロジェクトの柱となる「C.C.G.G. システムの開発」について、サブリーダーの森竜雄電気学科教授がそれを支えるエネルギーデバイス・材料開発について説明しました。舟橋俊久名古屋大学 未来材料・システム研究所教授と産業技術総合研究所の吉田郵司主任研究員がそれぞれ招待講演しました。

学園挙げ防災訓練

学園と設置校四校を挙げたの防災訓練が十一月四日、総勢約六千人が参加して行われました。M8.5の大規模地震を想定、各設置校では緊急地震速報を受けて机の下に隠れたり避難したほか、大学では担架搬送訓練などもありました。



大学ではけがをした学生の救出訓練



学園本部棟に設けられた対策本部で避難状況の報告を見守る後藤淳理事長ら



机の下に隠れる高校生



校舎から避難する専門学校の学生



千種公園に避難した中高一貫の生徒